

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 55

学校名 愛知県立一宮南高等学校

校長氏名 尾関 達哉

研究責任者職・氏名	教頭・館 健一	事務担当者職・氏名	事務長・藤嶋 信広
研究テーマ	言語活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進		
本年度の研究目標	(1) 変化の激しい時代を生き抜く力を育むために、各教科で生徒に身に付けさせたい力を着実に育む。 (2) 教育活動の中で、効果的に言語活動を取り入れることにより、主体的・対話的で深い学びを推進する。		
研究の実施内容			
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)	
R6.5.15 R6.5.23	あいちラーニング推進事業説明会(県教委) 第1回あいちラーニング委員会(毎週木曜日1限開催)	教頭・担当者 管理職・教科主任等	
R6.6.3~6.7 R6.6.13	言語活動週間(前期) 言語活動週間アンケート	全職員 全職員	
R6.6.17(AM) R6.7.24	高教課学校訪問 第1回連絡協議会(一宮工科・一宮起工科・一宮)	数学・地歴公民 主管校・重点校	
R6.10.9 R6.10.28~ 11.1	現職研修(愛知淑徳大学・加藤智准教授) 言語活動週間(後期)	全職員 全職員	
R6.11.1	授業公開(愛知淑徳大学・加藤智准教授)	尾張地区 国語(小嵯) 理科(高木) 保健体育(小池) 英語(近藤)	
2・3学期中	第2回連絡協議会(一宮工科・一宮起工科・一宮)	主管校・重点校	
研究成果の評価及び普及・還元に関する実績			
1 本年度の研究取組について 令和5年度までにICTを活用した授業改善について取り組んでおり、本年度は「言語活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進」をテーマに、意識的に「言語活動」を取り入れた授業改善を図った。 一宮南高等学校グランドデザイン(図1)に示された身に付けさせたい力を全職員が意識し、授業改善を図った。			

年間行事計画の6月，10月の年2回の授業参観週間期間中に「言語活動週間」を実施し，教員及び生徒に授業での言語活動を意識させた。

6月の言語活動週間の教員アンケートをもとに，愛知淑徳大学・加藤智准教授による現職教育を実施し，ご助言いただいた。

11月に授業公開（国語，理科，保健体育，英語）を行った。愛知淑徳大学・加藤智准教授からも参観後にご指導・ご助言いただいた。

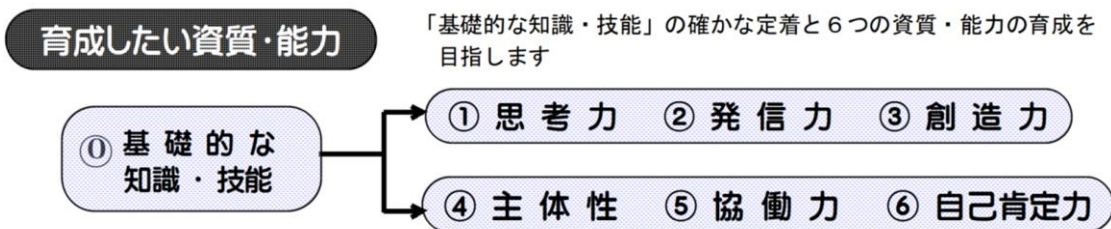


図1 一宮南高等学校グランドデザイン2024

2 あいちラーニング委員会

5月23日に発足した。毎週木曜日の教科主任会で委員会を開催した。全職員へ周知を図るため，委員会の内容を教科会で共有してもらい，意見集約をして委員会に持ち寄る形式で進めた。

言語活動週間等のアンケート集約や授業公開に向けた意見交換を進めた。

3 言語活動週間

年間行事計画の6月，10月の年2回の授業参観週間中の1週間に言語活動週間という期間を設け，教員にも生徒にも，いつも以上に言語活動の充実を図った授業への意識づけを行った。言語活動週間のお知らせ（図2）を教室掲示し，言語活動とはどのようなものかということや，授業内で言語活動を行うことの目的等を示した。

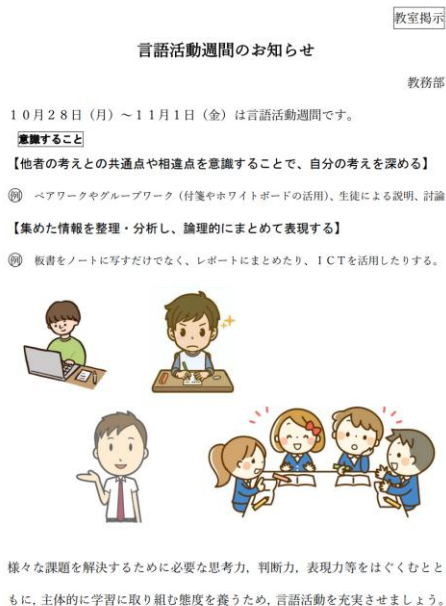


図2 言語活動週間のお知らせ



図3 授業風景

言語活動週間後に教員にアンケートを取り、どのくらい言語活動を意識した授業が実施できているか、必要性や課題等を把握した。(図4, 5, 6, 7)

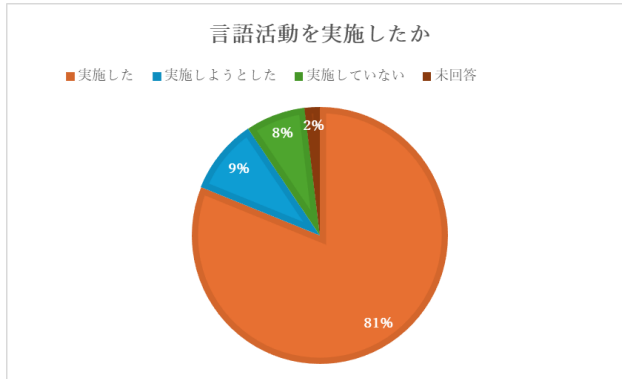


図4 アンケート結果1

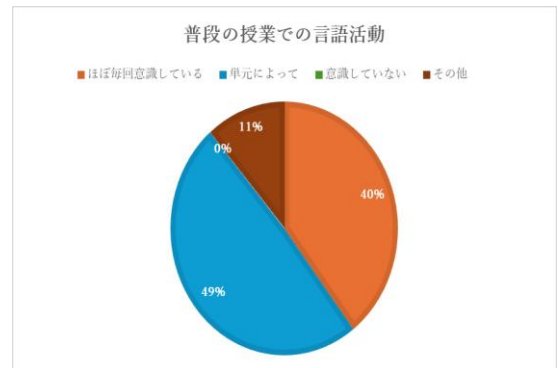


図5 アンケート結果2

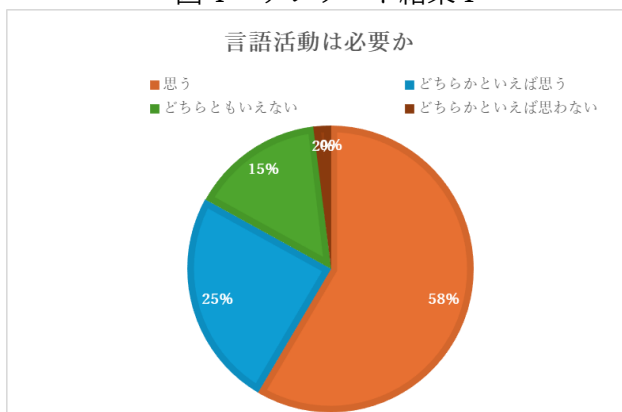


図6 アンケート結果3

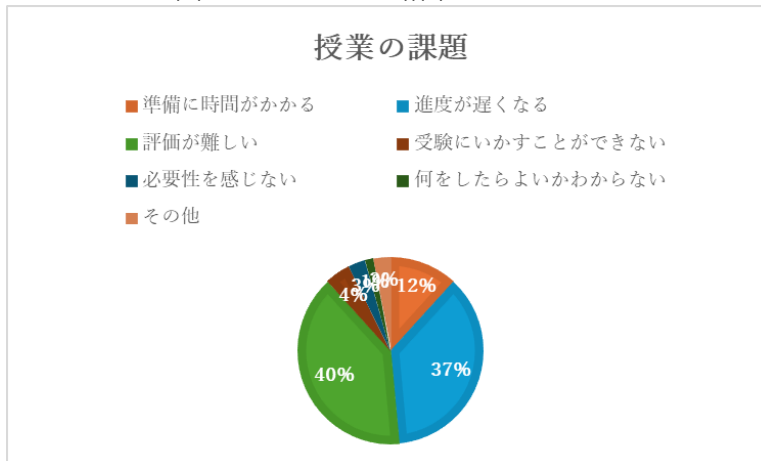


図7 アンケート結果4

4 現職教育

言語活動週間のアンケート結果から、実施するための課題として、進度が遅くなることや評価が難しいと感じている教員が多いことを受け、愛知淑徳大学・加藤智准教授からご助言をいただいた。「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせるためには言語活動が有効であるのではないかとご助言をいただいた。

5 公開授業

令和6年11月1日に公開授業および研究協議会を開催した。33名が参加した。当日は愛知淑徳大学・加藤智准教授もお越しいただいた。

<日程>

13：30～14：00 開会行事

14：15～15：05 公開授業【科目・学年】（教室）

①国語 小寄 由佳 先生【 古典探究・2年 】（物理地学室）

②理科 高木 郁成 先生【 物理基礎・1年 】（物理室）

③保健体育 小池 康祐 先生【 保健・2年 】（2年8組）

④英語 近藤 沙恵里 先生【英語コミュニケーションⅠ・1年】（1年5組）

15：20～15：50 講義及び助言（視聴覚室）

愛知淑徳大学文学部教育学科准教授 加藤 智 氏

16：00～16：30 研究協議会・分科会

当日実施した公開授業

教科	科目 「单元名」	授業者	育成したい 資質・能力 α	言語活動の分類 活動の見方 β		言語活動の特色
				分類	活動	
国語	古典探究 「歴史物語 1『大鏡』」	小寄	①思考力	(1)イ (ii)	F	グループで話し合って考えた意見を、ICTを用いて共有し、考察を深める過程で思考力を養う。
理科	物理基礎 「運動の表 し方 3.落体の運 動」	高木	③創造力	(1)イ (i) (ii)	E F	重力加速度を求める実験について結果を考察し、より精度を高めるための工夫を話し合い、実践する。
保健 体育	保健 「8働くこ とと健康 9労働災害 の防止 10働く人の 健康づくり」	小池	⑤協働力	(1)イ (i) (ii)	E F	設定した課題についての解決策を、ペアで話し合いながら新たな気づきや考えを昇華させていく。また、次回の発表に向けての準備を行う。
英語	英語コミュニ ケーションⅠ 「OriHime - A Vehicle of Your Heart」	近藤	②発信力	(2)イ	B F	相談者の悩みを解決するために、ロボットでできることを、教科書の内容を参考にしながら、ペアと協力しながら、プレゼンテーションを組み立て、表現する。

育成したい資質・能力 α

育成したい資質・能力

「基礎的な知識・技能」の確かな定着と6つの資質・能力の育成を目指します

① 基礎的な
知識・技能

① 思考力 ② 発信力 ③ 創造力

④ 主体性 ⑤ 協働力 ⑥ 自己肯定力

言語活動の分類，活動の見方β

分類…言語の役割を踏まえ言語活動を分類したもの	活動…思考力・判断力・表現力等を育むための学習活動
<p>(1) 知的活動（論理や思考）に関すること</p> <p>ア 事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること</p> <p>(i) 事実を正確に理解すること</p> <p>(ii) 他者に的確に分かりやすく伝えること</p> <p>イ 事実等を解釈し，説明するとともに，自分の考えをもつこと，さらに互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること</p> <p>(i) 事実等を解釈し，説明することにより自分の考えを深めること</p> <p>(ii) 考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること</p> <p>(2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること</p> <p>ア 互いの存在について理解を深め，尊重すること</p> <p>イ 感じたことを言葉にしたり，それらの言葉を互いに伝え合ったりすること</p>	<p>A 体験から感じ取ったことを表現する</p> <p>B 事実を正確に理解し伝達する</p> <p>C 概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする</p> <p>D 情報を分析・評価し，論述する</p> <p>E 課題について，構想を立て実践し，評価・改善する</p> <p>F 互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる</p>

当日の授業の様子

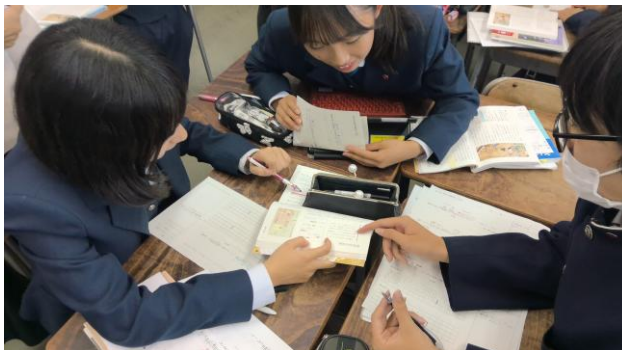


図7 国語（古典探究）



図8 理科（物理基礎）



図9 保健体育（保健）



図9 英語（英語コミュニケーションⅠ）

生徒向けのアンケート結果 身に付いたと思う資質・能力

表1 国語（古典探究）

国語	思考力	発信力	創造力	主体性	協働力	自己肯定力
とても身についた	26	18	18	24	24	18
やや身についた	9	16	17	10	11	15
あまり身につけていない	2	3	2	3	2	4
まったく身につけていない	0	0	0	0	0	0

表2 理科（物理基礎）

理科	思考力	発信力	創造力	主体性	協働力	自己肯定力
とても身についた	22	11	21	19	31	7
やや身についた	15	25	14	18	7	23
あまり身につけていない	1	2	3	1	0	7
まったく身につけていない	0	0	0	0	0	1

表3 保健体育（保健）

保健	思考力	発信力	創造力	主体性	協働力	自己肯定力
とても身についた	16	8	12	17	25	7
やや身についた	16	19	19	16	9	19
あまり身につけていない	2	8	3	1	0	8
まったく身につけていない	1	0	1	1	1	1

表4 英語（英語コミュニケーションⅠ）

英語	思考力	発信力	創造力	主体性	協働力	自己肯定力
とても身についた	18	15	16	19	26	4
やや身についた	19	20	21	15	12	20
あまり身につけていない	2	4	2	5	1	15
まったく身につけていない	0	0	0	0	0	0

アンケート結果から国語と保健は教員が身に付けさせたい資質・能力と生徒が授業で身に付いたと思う力が一致していることが読み取れた。

（国語：思考力、物理：創造力、保健：協働力、英語：発信力）

また、全体の傾向として、言語活動を意識した授業を行うことで、生徒は協働力が身に付いていると感じていることがわかった。

6 今年度のあいちラーニングに関して教科会での意見

国語

- ・指導案を通常国語科で活用していない共通フォーマットで作成したが、他校の先生から、全体のどの部分かわからないという指摘が散見された。共通フォーマットで作成するとしても、単元全体の目標や流れが記載でき、その中で本時の目標は何かを示せるようなフォーマットにしたい。
- ・上記のフォーマットに変更する場合、授業者の負担が増す。同じ学年・教科を担当している教員中心に、指導案の共通部分の作成は協力して作成し、授業担当者に負担が偏らないようにしたい。

地歴公民

- ・「あいちラーニング推進事業」で目指す具体的な生徒像がイメージしにくく、その中で意見を求められても、なかなか出てこないのが実情

数学

- ・教員一人一人にあいちラーニングとは何か周知されていないのではないか
- ・言語活動とは何か曖昧
- ・公開授業で実施する授業は、単元として効果的な場面、問題を選んで言語活動をメインに据えた授業を行うか、普段の授業に言語活動を少し取り入れる授業を行うかどちらがよいのか

理科

- ・年度の初めに、教務主任から職員会議で「あいちラーニングとは何か」「本校の方針は何か」を説明し、職員全体で共有すべき。
- ・目的と手段が倒錯しては意味がないので、無理なアクティブラーニングごっこや、形だけのICTならやらない方がマシ。少なくとも、我々自身が「仮にあいちラーニングがなくても実施したい」と思える内容で指導案をつくるべき。
- ・言語活動をテーマにするならグランドデザインの「協働力」が身に着くのは当たり前。他校でも実施可能な内容で売り出すなら、来年度は全科目とも「学力を犠牲にしない、思考力を深めるための言語活動」をテーマにしてはどうか。評価も「思判表」と対応したものを設定した方がよい。また、本来は平時の授業でもそうあるべきだが、授業や単元の目標など、生徒と教員の間でその授業に対する共通理解を持たなければならない。

保健体育

【体育】

- ・基本的に生徒同士、話をしながら授業に参加しているが、それが言語活動と呼べるのかどうか。深い学びにつなげるためには、知識や技能が必要で、簡単ではない。その種目の部活動の生徒や経験者がいれば、お互いに教えたり、聞いたりできるが、いない場合は、非常に難しい。

【保健】

- ・言語活動として、内容や費やす時間は何か適切なかがわからない。ペアやグループでの話し合いをするだけでも言語活動となるのか、話し合いから何を導き出すといいのか。生徒同士、話をさせることだけが言語活動になっているような気がする。

英語

- ・他校でも実施できるものを目指すのであれば、英語科で定義される言語活動である「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を50分全て使って行うことは難しい。授業の中の一部で言語活動を含める等することで、他校でも実施しやすいものになるのではないかと。
- ・オールイングリッシュでかつ生徒の発表メインであったため、「理解できた」や「発信力がついた」という質問項目は、生徒自身が、「教師の英語を理解できた」「うまく発表できた」という自己評価になるため、他教科よりも低く出たと思う。
- ・言語活動については、各校でも苦戦されている印象。こういう授業アイデアがあるという交換会の場となればよいと思う。

7 成果と課題

授業参観週間（年2回）の中に言語活動週間を設け、教員に対しアンケートを取ったことで、大多数の教員が言語活動を意識した授業に取り組んでいることが把握できた。

生徒に対するアンケート結果から、言語活動を意識した授業を行うことで、どの授業においてもグランドデザインに示されている「協働力」は身に付くと生徒が感じていることがわかった。

「言語活動」というテーマだけで、実際に何をすればよいか、何を目指していくのかが分からないという教員も多く見受けられ、やるべきことや目標をより明確にし、職員間で改めて共通認識することが必要であり、言語活動を行うことにより何を評価するのか、授業の進度が遅れてしまう等の課題を解消することが課題として考えられた。

来年度は、今年度と同様に「言語活動を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進」は引き続き研究テーマとし、今年度の結果を踏まえ、言語活動を通して「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることに重点を置き、評価も「思考・判断・表現」と対応させたい。一宮南高等学校グランドデザインにおいても、①思考力②発信力③創造力に該当すると考えられる。

教員間で共通認識をもち、更なる授業改善を図りたい。